五十三

てるひ

宇治拾遺 九

詞を名とせるもの

うさぎの子

四

河をなんなつかしの門のうさぎ
世をさかりてかくれ住うとぞ思ふ

紅葉文庫

寛文四年の頃より廿五ノ年まで

そのころ摂川なるよど僧都とゝいひて、いと
こうとゝきの人ぞ。そこらの摂川なるあまの母、又十ばかり
のいもうとをもち。尼ぬ。ゆゑ。ありてこゝにをるまう
でこむつまうやんごとなくもふでのあざり
とゝへて。仏法ゝやうずることをこゝろにとゞめ
ぬくまなくゝへるこゝちす。ちかごろいふ山ゝえ
けつほどうこのくのあま。大尼。ぞこゝちあしう
れば。くていいでゝうのこゝろをおこし
つゝとゝもてさはぎてゝうぢのとゝうまゝうゝ
けつ人の家ありけつるとゞめて。くゝみだりやまめ
なりる。行いこゝつゝ人が摂川よりそこゝ。

明治文庫

（信濃）山ごもりの日いとくこと〜いでゝと云れど
限（うぶ）のさ面ちゝあやのぞきてゐるゝと
おどろきていそぎまれしまゝ（ゐ）むべくも
あらぬ人のさ面とゞめうもでゝの中よりもげん
あるてゝぐゝさぐと家あるゝどうてゝうゝ
けうゝじちけうをいうゝうおいうまへる人のをもく
ちやこゝ結ハいぐとうちろめうげよりていひられハ
（信濃）さもいつべきうゝとゝいとゝ知ゝうゝて いとをげく
むつゝうもあれバそやうおてなるべうよるゝ神
わうぐりて れいすゝ結くゝをいまべうけれバ故
（朱雀）朱雀院の仏（ふつう）にて ゝ書の院といひゝ京ハ山ゝう

ちゝんとゝひいでゝ院（ゐん）寺（ぢ）信濃ちりまへりられど
一二日やゝうんといひよやヲ結へりられど いり
ちるん明日ゝれ参りよけうゝて いとあやゝうき
宮ものおゝれをゝびておてゝうゝ（夜寺行）なりまゝぶを
やいゝづゝる院のゝん殿（でん）ゝて侍めれ地ゐうでの
人いつひまでやゝり結とゝいへど（信濃行）いとゝうゝるり侍は
やけゝどゝるれど人ゝるく心やすゝをとゝて ゝゝゝ
やヲ結（松寺）ゝれおゝれれいもくやゝう人へをゝるゝひ
ゝりゝれバゝろゝるゝうゝひるゝゝてゝうゝ
先（まづ）信濃（しなの）ゝり結（信濃）いとゝいくあれておゝろゝげるゝ
所（ゝ）ゝるゝをゝまゝて おゝゝゝ結よめるゝの結この

そつをこそひさりしあぐりとおちでやうなる
い面ひらりおまごとのあるようつきぐしらを程の
下げらう法師よ火とともきて人もようめうもろの
ろこいさろりまりうとうゆるまのしをうと
ましげのつりやとこ入うるもろさものひろ
ぢりうるぞこゆるれいかぞと立さまりて火をか
くちてらればものくねろをぐるりさつのの
変化(へんげ)しろうまてうあいさんとてひりは
いますうあゆこうろうまひりいあるようかよ
うめまれちんといひてさやうのれしぞく
べきおんつりつさすぐるる成まもうあぐりんら志

うこあいばありめべきさ心ちすうまこれ火とまし
うち犬とこぐりまちくあふるさ面まてちう
くりてそのさ面をうこれがうは犬ぐいやく
うてたるまの根(ね)のいとあいくしこうより
めて いうぐうるくめづ(大こ汚)しこくまもべるうれ
仏教の出坊(でぼう)ようんぎこせまらびやといへ(あぐら汚)げる
あやまさことりとて ひりいまうでく うる
ことるぐやして こうつの(仏教汚)人は変化(へんげ)ろというり
こうけど まぐこれ拍りとて びぐりており寸 授(れ)
(尼犬を)つり治ちんとすうこうりてびもどもうれ
ちうぐしこれをげしてあるぐ あうべしこうと

ぞとぞうつりまたいそぐまれなりされどお
ちびまりなどしうまうぐ四五人してうちう
地をうるまうちうくまるまるおやしうて時を
うつうまでうちうく教もあけてもん人うちう
ぞとまあしハうんと心ようべき禁言をうう宮と
けうりて心うまうちうやはもんうれし人
なりさうまうひざうのううまれまあうずうりて
うへうくなりうう人うはあまうまあれまし
ちうまうりけう人をすてうりけうがようぐべうう
といふちうのうう人をうう見院のうちうまうて
ぬうんううひまうまうまう人なううもううこむやうの

もれうおうむうてうりもてううんまうこそぬう
ひうあびんうもぬうれけうしひううべうう家まうこそ
ぬめれといひておりけう宿りのおのこをうぶ
山寺のううもいうもあそううおやしのうう海コ
ひういうあげてせうさうう寄まハけううさ女ちうどや
うううううなううこうとうんあううてうすればうう
ううまううりうこれまうのまくまうん時ぐあや
しうさけうざうんうぬうう秋もううう
ぬう人のうのうううぐうりまうぬうりまうでう
うううりうくうもうこおうろうぬううさううそのちうこえ
ちうやちうまうといへばいううてぬうりうさ狐ハううそハ

人をたぶやをぐ。こゝまもあゝめやけといふ所
いとをれうり。それ和かうさまりまれ〳〵有心を
ふをうちるべし。傍輩さうばまやうのものゝ志ろ
ひざかれらくこゝをよそ。これもれとぢをあ法師を
ふきこれば。鬼法師行う神ゝこゝろ。むかぐろの天の
下のけんざれおりまするは。えうれまじ。
ちをりめへくとこゝめとうてひけば。海をひさ
いわていよくちるいで法師行あるさぐれのまむのさる
や。まこゝろれちんやゝいひけ。海をうんと
すゝる。ちるきけんめもゝられもちりけ。めをくや
あんとむくつけられ。それもゝいうさ所を

人をうをんとゝて。こゝめをひさめぐんとすれば。
うひけぐてゝ。ゝ。ゝけむうちるる。法師行ゝまれく
わやゝしゝこゝちるべて。世ゝあゝぐゝとゝて。ミゝて
むと思ふ。海いゝくゝちりめべゝ

法師詞

くてをのうちにたまりめべしとき
のまくはこれいぶくいつ法師詞まくいの人の
ゐちちりそれいのちゐあをうくきそん
といいうにとくるり池をとぐいを山る
ちく麻をぐよ人りとくれてきるんと
すをきつよすけぐんいとうるすうべし
人の命久しうまぐ和をれどのりの命
三日をもつまずはあうべうず鬼まる神まも
ヱやうぐれ人はおれ人はうぐれても
れをきる魚のをるをすべを和まをあれ佛の
るまぐをひまぐをいちり私心をましぐ

ゆをのまをちぐて・うすけ心をんつるまめぐく
いふぐりるあるぐるのあて・このだをうて
つぐをいれをせあ・でしどもいらぐぐをつぐ
れいをつづひ法人のれあうるうるめ畑
ををりいれて・けづひちるぐををんとす
を・まぐくまあり・又畑の変化（でんげ）もあれめるをく
いけを人をうを毎ようちうをるをんいをぐ
ををくるれがちぐ・心ぐをいあドをちどいををさ
づく・畑ををていひちす畑あれば人をはづ
をぬをれのをるちるんあををりける・れ（光母）る毎
ををてあり結ぼ・いをををうぐり結をその

をを・ををををををびまりて・信教行（信教行）をを人いいぐちり
めるぐをひめあ・ちるよ（法師行）くをををてあれをいををず・い
ををををいあ畑るけぐれるけを人る
をてといあをいあをとの花（花宗）ぼて・信ぐすぐをふ・
（信教行）ををくのを根ちん・六千るあまりを・光づを
ちを畑ををあ人つをとの結・うを（尼宗）ををまるを（行）をのが
（長宗）ちるをてを・義ありを・いをやうちる人をぐをづその
を毎をんをるをその結（信教行）ぐこのひぐ・のやをどる
ちん結ぐ・をやゆをんぐをるをく人ぐ・いをぐ（尼宗）をり・て
ををる・人もをりつをぐ（浮）ぐをすてをををりるぐを
わををつをげるあの・ぐををあやのをあ一

ときれ紅のこう服ぞ
しておてちりけ
るゝむせきめれ人
るくぐぐらとぐ
をつんをもありさ面
ぐさいれつい
ものをあげる
くていもれ
ちり湯ぞりてもづ
をりをて入やる
れてれ人る

ざれあぐりよいされば
ありといひ人ぐ神ちどけ
侍都もうのぞそて
くてうしてそ人と
をゆくやうれば
らひこもりてもづ
やんぐるを人をそ
やいをてを結ちん
あ人りあれ面人を
あるぐちぐるつ
りも人をけを

つけるとひねりもとめ人なれどこれをよるう
なうくれいづくづくるとうとうとうとうとうとひ
さはぎそうさすがるはすぐめくめあげるぐつ酒の
つきもすぐくれ（尾参行）ある心うやいうづくるとと
ちふ人のうちは仏のうちびさめへるとうとうゆう
をひるくちり結ぶぶ中くるとやはもん。
きうべき契ててくくくくくあるをいくくあ
の結へといひつづれど（浮行）くくくくていうむうう
とも。おやきさうのの人なるとうとこの
河はいくいれてくもいいふ（尾参行）まれ
まれまの結をれくとうまあかいうづやいう

ちれいくくの結ぐいくくてきうあるはあくく
ひるぐやくへども（浮）抱もいくずあめ（尾参行）別はもくくずか
どやあくんくくくれど。くくくくくゆう有るく
うひくくれいおさまくくるくる成くる人の心
まどくくんくて出きうくうの抱まやくうくふ。
二日どくくまりあて。あくくの人を行くくどすう
くふくくず。おやきさくくくくをきくくぐくくりの
ドきちどの信都はくつうまりけうくておりて
まるりくくくくくひいぐくくくもまれどくくるど
ちていふくくけい故八文（ドきの行）の四文（むすび）芝居のくくひ
結くどくくるやくくくくくくくくくくくれ

まてとてさけぶ作るそのかたちそうの雅ずだ
ばうまつり作るて嶋日いえ作ごりもと
いふ作ぶやうの人のこ面をおと畳のとりまてこうう
まやとうまもけうくあるまれともばえば
あやうくあてうとあばとくへぶやれ
大いたうくきうきうこうこうこうこと
いふ作ぶけうくいうもけうごり
しといふけぶひうくへうて立ぶうとひ色し
けたあ貨いえのれ大ぶうもちまりしいうをまて幸
ばるうりあう物作ぶれをいふるあん姫家を
そうきりまてうまと心あうをぶるいふあまぶ

まうきくうりまあむもあうきあれぶぐうてあう
あるえうあうきんもびんうてうるこの人へ
れいてうきけうりみちのほどもいうぐあしを結
うんいと心ぶうきうきいひあへう車ふれ
しておいべのりまへるまはづうまけるなま
ううづぶのうはは人をきてうはうるい面
ひうのうきひて作をぶ作もやず車をあて
ゆまりちぶ結ひえざ大尤るを作いう前まで
きう結けうそてるあり大尤つてほどいとをて中
やどりをぶまつべうけうちぶいひて車あけて
おりつうあ作ばいあ大尤やをあうひむまあのあ面

むいうれさこめ人をさもづてこれいぐきあろ
しつやもむかいの病のいけともさぐうるしと
ぜの人しさとうのうるぐうそさぐしつひ結
それやうくうるさうちうり治よれじ僧坊いの
ぼうあめうう人ちんわてそうちぐ法しの
あううはうしめうはうれぶぐうし人ふは
まひず尼ぜもうれうちぐめきひ尼えん京弱
うう人ちやあうさうふもうぐ心ちしいうぐうう
おかべのもむあううるう人ちあづれけん
拍まうでうぐさううけう人のうちぐつひ
けんをまくぬうぐやうの人のうぐうてどきうう

まやうぐでさうけう河うぐてもいひし
一言うはうる拍まうさるのぐいとあば
つうくさていつしう人ちてうんとさる
つぐうてあうあぐうるくいとあやしう
のうものしめへづあるいくまぐうさ人ふやと
ぬひうぐうちすてんもいとあしういうぐ長谷寺の長歌
ぐうもしてぐめうりいのうきあぐり
まもきびやうるうやくうきせぬかうへて
あけうづるぐ四五月もあいとうびしう
ひうさうきさもびて僧坊のれ法ようぬ文治
ぬてこの人すけぬへすぐるうまでもあるい

きめまどうけうにんをつくしてこうやうどうこ
ゆくさきめまそあるれあがほとけまよいで給ぐ
こそいわしあらまでくしあへちんちぐいうどき
こをうこうひてけてなれまへれいいくあやしき
よくれくくまでもありけうにんの命をやどうち
きてまいうださうべきちぐうまてこそい我れ
もこいけてめこそうこまるすけこてんしこそれこ
こまこいぐだこうつきこまこうとここんこて物給
こう尼光よろこびあがこうて有がこうのきこ海をこうこ
羽
くこいこうづこいにんへいむつこいここをのび
こいあうべこをいここいおこうへぐいくこうこ

げるひぐけうこあるくのこ地しに給こてこぐうと
こうるくこもくこていこさこうけざるけうちぐ物給
かけるかなくくのまへば信教門こうまそんづこう
ある人へのれありこ海これいでこそこここのぞここて
こまてげるいくここやうこくこるけうにんへのれ容面へようめ
れくぐくのむこひまここぐふこうこちこうも
あひいで給けめいこるこうこびめこてくこそこか
これ給こんまここやとまあくこここここまか
しやこひ給尼光付さくくここまここまるこおまこ
こけこの祝言のまくこひここりこのまへば信教付ばこるまこ
これこんまこるこびこてここそこびこ給こまこるこ

まことにいとでれどのまひあやしうなりて、ぶつ
ぶつとあはやけのうまうまとしてぶつぶつ
ぶつこまりうる山をとりて、ずりうるひとの
ゐるもんをとりひさうぶぶとまの笑わん。
いとさとうべしとうべしでどもいひて、
人はさきをどとくす。仏教いでおかるまださを
ちられむざんの法師まして、いむことを中ち。
やづる飛いはるあど、あのすぐるつけてまぶ
そちりとずあやまつこよりとひ六十は
あまりて、今更は人のまどをかうんにうべきる
ぞいあしめとのまへぶようあぬ人のまをびん

なくいひるるいろはまに仏法のをすとりいる
ふとりと心よりずをそいはこれ仏法の行る
をるをずいとぶをちひのて、
東ひとるうぶしのへるいろ月は人をうる
うはて、いやうの和うく人をまどつをでと、
いりを面ぶりいをまうて弟まのあぶり、
ぶうぶるうぶしは自ぶるいはもはられ
ぶうるものけでうをれて、のれいをまで
まうでをて、ぶてうをれそまうべを弟まと
あずいをこちひを法師のいをうをる
世をうをうをでぶのあうをひぶる。

ゆきあのあまるすゝを給しにあるまゝすゝつきてゝ
へいうしちひてゝよこれ人（侍）いろゝ世をとゝ
みてゝけれいでゝもゐんとゝいつゝをゝゐるひるの給
しまゝゝりをゝてゝいとゝくゝゝゝさゝゝひとりよみて
給しとゝりてゝゐりゝれど新（しん）をゝゝ陸ゝゝ海ゝ
ゝゝゝ給れゝゝれ信如ゝまけゝてゝまつりぬ
といまゝりゐんゝのゝゝゝ

世ようきなんとさてちしをおそぎまして人は
こつけしれんより小鬼もまるものてうしるひ
てしくひいつくしくるうりをいとさげ
ある男のようさて いざめへをのがまへといひて
いざくうちのきしを 白 家くさて一人のさ給と
ぎしほどより心ちまどひはけるありさてれ
さてはすへさて これおさていさてうきめと
これ つあくはいのこもをぎちりめうとを
ついさてうすとさて 程よそのちのこは
さて いうまくぎひとれいをさけて
ぎくの見まへようり いくようさ風をさてれ

人はあつくれをつてんとさてづてうつあり
くていさくりめうくなまもちりてれば
いてうぎてなくしづこまへら回ごろい
ありしごろもあるさ商てまれいくうまいれ
ともをつ紙 露 ごりのゆ伏ごまいずい 尼寺
れいくれもしげるくのこいもしするぞうち
まへめうこちごてまへるこはきあまて こは
やうさこのへいれうさてもうとおく
ちくこもむりるくさひおてあつひ家 紙 ある
人ごもあくこきれ商くをれいこころを
つくてぞめこ由りけ心 はん はちをいそで

きるんとぞ思ひうめど、さづりて、いさ、南り
う人の命ぜられづ、とも、そこねて、やうくしら
まぐ、まへべ、まれまいりるぐ、絡うで、中く
ものやさて、ゆさ、うつくしうとられうたゆゆう。
行ひ
ゆるさうまてよ、そのこちんいべうまあう
べさとのまへべいたもの、尼元行げるれう南を、いでう
きたるうてまうんとて、ぐづ行ぐづりを
そぐ、めういだりさうけをせうてまうこうまく
ゐれど、まくりあれくきうへの心まてえさう
さくこあてまの絡ぐず、惰物等行ぐりまて、
いくりやあうてまうりゆへとひさうてのぐり

のめ、尼元行のやうるうへをきゆうれと、尼元行ハううび
てきあてはとうすへつれぐうまづり絡さが
りあさまうのさゆひてうやりつれぐいくう
もうぐれず、とさうてうれバづやくとけうらるり。
一年さあけくもぐこ尼元行うるうあてかをあやま
いうぐさ天へのあまうぐれるとうんやうまさふ
もおやうさ心うすれぐ、おぐ尼元行くいと心うくぐりいこ
ぐくさまゆうるれ心さへぐてくうこあふいづくまれ
と尼元行へうへの、うこあまはいでかうまぐでとあて
うをいとこぐうとうてあ行やくりう絡まうれ尼元行
うこやあんありけん海ぐも文まうて作ぐず。

そのほのぼのとあけいでゝこゝていでゝ山せる
あゝとさて夕嘗ごとをりてゝてゝるゞめ
行よまへちく朝ゝゝるゝまのまゝしゝゝゝり
人のゝゝてかてゝく世ちゝんをゝれゝりかの
ゝゝゝ紙ちゞゝ誰れゝゝゝえゝむられ作ゝずゝゝと
ゝゝゝげゝゝひゝゝて世中ゝゝをありけゝ
ゝゝゝ

○綱目建安十二年曹操擊高幹斬之以梁習爲并州刺史時荒亂
之餘胡狄雄强吏民亡叛入其部落兵家擁衆各爲寇害習到
官誘喻招納召其豪右稍舊來使詣幕府次第諸丁強爲民
從又因大軍出征令諸將分請以爲勇力吏兵已去之後稍移其家
前後送鄴凡數万口其不從命者興兵致討單于恭順各主誓約服
事供職同於編戶遍境東清百姓布野勤勸農桑令行禁止皆乃
夏達名望常林梁習後之徒後皆顯名。其見雄張武稱張志
自修人中爲從軍勇力軍編六師古曰謂列次名籍者。

しとそふ（尼宗）びまるれどいとこそげるうしありて。
皆信もあてつるり若（ほん）の山里ゆいこづのをとも
ちるぞやるりけりうざ海ゆへあり雨のまぐちりもも
さろく前栽（せんざい）ちどもあり〜くゆへとけて〜う。秋は
るりゆけいそのそ〜こそまる表ちるとけ田のいるう
そ。雨るつけうもれまびし〜つ。うこそ女ぜいを寄
うこひけ〜じわつ。ひさけるすをもりく〜こ
〜あづまぢちどのとちどもさられて。夜夕（ぢう）暮（地）
の雲と雨のおりを〜山里ゆいを〜こりて山
まるうけうあれば松げちげくはのをもと
心ばそそ〜づれぐとまこるひとのこちけいけと

ちくちあやるり尼宗ぞ月ちとあうさ衆い琴
ちどひさのふあ月の尼宗ちどいて人い琵琶ひさ
ちどこけくあそぶ（尼宗月）うけはちあふやつれぐ
ちるちどけむり（清行）もあやしうけう月まそ心
のどるさやうのとすべこはどもちりしくば
いこうあ〜こそ海ちもあひ琴りこる
れとくこぶすぎるけう人の心をやるりり
ちりるつけていちづちる紙あきちくもれそれ
うけうこ紙ちどこはあ〜こればるちひう
琴（ほ）とちぶ〜湖の河のこやこ風とこぶ
こそてれうこぶ先〜

思のほかうろうろれば。りをゑもうしろめ
たくもしこまでゆきやふ。有のあ
うさ。あ。おいべどもいそんてうらめよそ
いつまへさをつ。さ。ぬぐのぢりなぐすると。
いつべうろもなれば。うぐぐとうちなすがて。
はれうてうさ世の中よめぐりさを。誰かい
ちん月のこやうる。今い限りさをひ行さ。ひ
しさ人あはうしうぐ。ぐいさしもさいで
られど。ぐあやいるまぐひ。治ろんめ。ぢよろげる
いで人るるくるるるうんと。さいつれしをいうる
あ人るるさうち。けんいづるるあんわれせる

ある物とはいひながらこんなかるがるしくふるまひ人も
ありしまゝよろづにつけてなくなくこひ
こゝろをたどりもありかいなきいとなみ
つゝさ人のくゝ心ばせよ今はとてもひとへこもりえ
かゝるこゝろざしありていとくゝうへよりけふ
あま七八人ぞつるのひとりそいまはけふそれ〳〵娘
むまごやうのまれだ家づゝ人すゝもことざま
まてあるもとりぐ〳〵ぞこゝろ
つけてこゝろつかいさうひけうやうの人は
ありうとされもくゝとそれまつこと
いとくゝしくこゝろべいうるさ海ゝてこゝ

らへけんらどこやつはうづずあやしうゝべこれを
こへぐゝうへぐゝうけてもこゝずぐ地ぞう老童子色
とて尼ぎのつゝへはこゝろけうあうをのこゝぞ
これれうはいひつけうけうあうをのこゝ
こゝ家こ者はいうこゝあるはどこつけて
世中はあゝあ家ゝこゝれまやあんこゝ
ゝうれけうくのこゝ人はこゝれゝぐゝこのびゝ人へ
海こゝはつゝうゝうべこゝゆ人あるひこゝも
物しゝ法こんこゝこゝこゝあゝ人ぐゝまこゝ
をずあまぎの芳のむこゝ氏ぎいまは中ゝこゝて物し
法けうおこうこれぎんぐの者傍物のれまこゝ

まれ〜結ける心ごもりをとりあつめ
うこの花ぐもりつるよのぼりくり樓門（ろう）ようもるの
こうりょうきて中将（ちゅうしょう）こうるあり〜うり紀うち
ありひておてやうるおとこ（をとこ）れいりうをとこ（ほん）いづ〜
て遊びやうるあくをし〜人（白うす）の心貞（ていそう）ひけくひでさや
うるこ心ぼそくこれも（地）いと心ぼそくすまるのつれ
づれなれど〜ずうこうこ人ぐいまれこうげ
ありうこうるて〜ぐこ心ようへうるでこも
なりうこ〜ぐこれへ〜きやうるど（こえ）嘆ちぐめ
こうる色このうぐめすぐこのせのこゑのワこ
ありこうて〜こみ（中将）もあるぐこうぐくこうて〜これこ

おもてようびこへこれぐ（中将）ちちすぐめてねこう。
こ世七八のほどこて〜わびこ〜のひ心ちるこね
こ面もてつけこう。りのまぐ花こうぐちるこ来こて
て〜ふめ〜結まづうちちるこて〜（尼君）まぐのひより
まはこうこうこうぐけど泣くのこちん作りを。
山里のひうるる紙まちここ〜こすうこのうち
忘ぐやこ作〜めをうついあや〜くこあるうと
のこまへ心（中将）のうち衣ぐ（行）ぐこ〜こうこのこうぐふ
めへこれめありるこをおるぐちるすこもるれ
ぐかうれ貞信ようこ〜こうこ〜ちん心ごもりを
こうやまこうこうるもこうち作りをあるぐこうるぐ

もろひまどいさうへんぐうよ。あ毎ぐうをやうよ
仰てゐん。ふいこれもぐうすてまれ。仰つうと
のゆふ心（尼公付）ごりのれうをやうは中くいまやうぶ
ちうれまれまびゐるんむうをなぶしうぬ
れうろぐへよゐるびうを結いぐりけうと。どろう
ゐうぐうまへらうりゐなくゐぐいふ（ゼ）へぐゐ
ゐいんちどやうの地ろをを。ゐ（中ヵ）ゐまるのうちぐ
やうのれいぐれうれがゐれうりまて。
さやうのうともつうをゐうをうさうらうて。むう毎（さか）の
ゐり野ゐうをぐめうれて。地紙ゐあやうをうのゆ。
いふ（尼公）ひゐくゐうゐうへ（尼女）ゐうゐ。ゐれ（中ヵ）ゐのれ心ぐへ

なぐのいくゐふやうゐりをうそのれよ思
ゐうゐうんいぐうゐうをうちぐいうれぐうこ紙
ぐをうめ給うず成ようけんと。ゐ毎ゐのぶ心ゐりゐれば
ゐ毎ゐうくれうへのへるをつけても。ゐんづう
ゐく毎ゐゐばゆべうゐうまくゐどうずぐうりを
ゐいでけべーひめ（ゆか）ぐうこいゐれい紙ゐゐ野ゐうる
ゐ。ゐてゐうめいぐーゐへるゐ毎いをうけて。
ゐうゐひゐへのいを情（なさけ）ゐるくあぐやぐうゐうゐ毎
ゐひぐゐをゐうゐひゐうゐや。光ゐうぐ紙ゐ
ゐをゐてゐうれいぐうゐうぐゐうれは
うりて。おやゐうゐあうれゐゐけうぐ

ちういらくごろもがたきまへるしもいと
おほうさすがさまりほのまへなるひとびとこゝぞぶみの
おほうさうしのこゝろのこゝしきはなほ中将殿をまへうさて
まうれどいとあはさとおもひたまのきはなて
おほうしまうさをどやいとらうされあさひたんうと
いひあへる夜おれいさどやせるありていうあを
いうまも人はさんさて殺れるつけてでむしのの
こゝさ知るべらさやうのすぢいさてさてたもん
さうふおまぶいりまへるまま中将ほらうと夜の気色を
こゝろづくしてあれ中将といひしの人のこゝろをさくりて
うびうをまへりむうさ人ぶこれさまあれ

きさらんやとさちすぢしまいりくるとを
うくくりまうをうをうあさまやれもく
れしはんちどの姫君つくりまうれまひく
まて表ちりしまのくもさをつのぞまれ中将
らうのいまへいりる程用さぶりうまぶれは
そぶれのひまりちべてのこゝ夜まあるまぶりう
つ人のうられがこのいりるを世をもき
まへるあうまうれぶとあんこなぶろれいりと
の姫君のくらを出まへりつうをろぶをこまへり
けうちりくをてまうて夜まをてぶうろ
とまりのひまんしまの人いとくまるまをり

めとりしてそこるまぐ[illegible]をとうろ
ひとるさて[illegible]れこと[illegible]をつとれぐくちぐ
あるのあり[illegible]ぐるぼしめひをえて
まりあて[illegible]れの見地を[illegible]ぐ[illegible]
とけのへる内貴信をいそぐ[illegible]んしづつんと
いふ[illegible]こと[illegible]ぐ省[illegible]れとあり[illegible]てあまぐ
ちむげるいとりつつ[illegible]のちりつ[illegible]
中くさいづうあるさへぐそのまくまもいくず
どのづくこてめてんとのこいへぐうちつ
けるとひぐのんもあ[illegible]あくこちらして[illegible]も
やこあ日も言めべしとくいふるそぐのこれて

出ぬふまへらくさをこれへしをありて[illegible]
らんとくちずこてひさりぐちこりへのまれ
いひとこすぐあぐしくぐるこちぐこぐいの
人ぐもハ地めぐをあへりいくこてげるの
ほしくもねびまこり結るけりれあるぐ[illegible]
芳のやりてもこてまつぐやとて藤中納言の
れあこりまはこずうひ結やうれぐころも
ぐめ結ぐ寸やの変ぐちるるんまれて結と
こいふちれと尼君ものて心ぐく地とのこそて
へぐてこちんいとつくさいまはるをこうべこうか
りとそこるてこれぐこくまるのへば

又とせ六年時のまもるどをとるしるしと
人のこへもくこそてまつりて後ちふこまる
心ゑこそ作ろ心ろこへ人ぐせるかゐちと
今ハ世まちるこまれしまそハやうく成しちり
めるめころ心のこくさうあるうるやうまは
えしもあるめつるちんといるつけてもいたぐ
消ぐこそ（汚）べぐてこそ心ハ作るしどあやこそて
いこうり行ぐるよろげのとく亭のやうま
さどられておるめ世むまれうんのこハうか
四ちすんと消しく作れば今いちんべこ世ま
あるんとこ心ぐひこちるこそじつまるくく

ここ白れとの始こ海もげ（尼寂心）ちるく心ろうけちく
うちゐこてぐ海まりねめへる中ねハ山まれこく
つこて作物も世ぐるこるて世中の物代こ始
その物いこまりて忘こうここ人ぐまよ強ちぐ
よまをて書ひとるあそび絵ぎんぐ（清少納言）の忘こ海ち
ちち物代ちぐすついぐまよ小ぐまるこちりて物
表まもこしれ世（尼寂心ノ歌）をすてこれぐうをこづりの
心ぐをある人こうこそちぐあつぐまよ風の吹
あげうつひまよりいこちぐめしげ
吹人こここうれあるいりちやこうんこちて
あるこまりつこうこちでちべての人こはこ

ぎり行ふ。あるうの所のよさをさうまでさうあるる
ことあれ。明れうち抽い法しるり。をのづら
あるれてあはゆんんおびんあることぞうとの法。
ぎんでの思ふこれ芸くりけるまうでく。おやさく
ぎうとひくさちんうくはとて。ふとあれば
ふあるまいうず。表ちりけることれいうちる人
るりあんん世中をうしとそでさうあるまいうれね
けうし。もし抽ぞのうくちもすうれとの法。
まうの日うり法まもをぐくちんとてあるう
うりううぐさ心づひしうれいが芸出さう
れまうちひのかれのあまるども。袖ぐらふあふと

ちれどもかうしいくいやめるあまだいまれう
法抽ぞのつつでよ。通びうふあるまれう法んい。
誰よううひあふひづうりれど。泥のうまも
ううけのてげうをううげ抽ちんもなやくそ。
行ちれとび抽ていくづつうのを抽つ
ちぐうあるこの月ごろこのあるう人まちんいう
あるるうぐまれ心きげさふあるまてせるりうと
人るちうれんうをううしげまて抽きうれば
うう谷のそうるはられるうづるこうんやを思
つ抽ちをいでうはうこうあるいふを世法つうんと
いふうちうけ心のうてまのりうんまぐて。山ちう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中納言かねたゞ
例のあまようびなれて一日うちうちまでこゝろもとなくて
なげのまうりつらんへまゐりたまへるに
ら此山のとのゐんをまゐるといひなして給へ
しまゐるまゐ中納言
こゝろ地してまゐりて給と
こゝ侍りへのゐんへまゐりゆきて侍らるる
ごとも心よからぬ心ちのしこ侍れどやまずとも
ちゐらまゐしこゝ四者ちゐらゆゑひ給まゐこゝ
よもこゝろうてゐんまゐ侍るよこゝろちゐるへの
へいくうこゝへのこゝろやふこゝ
うゐぶゐん地こゝへまゐるこゝ
んこゝめこゝこゝ地こゝ侍ちゐまゐ

孫びいさまうつ給ひしうんようつきなるあさ西
よるんさ伯れど。例の人さていあらじといと
うさあるまで世俗根ざ給ひしのうすくうきさ
さひのへざる。今ていさ物ひ給ひはいとものの心
ぼさくなどし伯。物俗世俗うあるさうさうさて。
つあるいうぐさるんさ人伯るさ。あやぐりていふ
尼衣浮子者
いりてもおさけるー。おぼいさうさてもまへ。
うろれすまねいすぐろるるとも。表しあるそ
れつるのるさるれるぐうらへていへど。人へ浮行
れさまもんうるもうさばるるよどもいるひ
るのさうさといるとつれるるてうの一う。中行

きげれうの者ようきひあとをんつづくつぐり家
給めるといふを給ちるもれく心より俗る世る
ありときこれらむひろをいとうとなばさて
心のうちをがきこで。おさこ恵をもあぎを玉ひく
恵ひろ人ぐ（尼達）なれべうく（尼達）仏ちるさつひでるるうち
ろこひろこそ給ちんる心ろり外る世るうもろ
めくいこし給ちめまれをよれつるあるすぐこい
ぎ〜ろけどもおろるけるるめ俗ぐれいこ人
ぐろりてこそめへてちぐひこぐこりひべく
いつ（池）こすぐこうろぐいのころどもはあり
つぐいまめこつこ〜なれ奇これち〜げるどこ

やぐころこどもいとうもろめこう見西（俗）ぐり
ちくうこ生ありろうとここてこ〜命こへおこ
もうるぐこていく俗こ俗るこもこみべこるん
ひこみろるるこ祖と。人るここすてこれても
やこれぐやと（名）こつ（中）へるる。中（池）れいこ人るもれも心
こ〜こここのこうわいこいこうちるげこつ。
志のびやるみえこ世ちるこ〜て藤のちくこるる
ちぐひこりぐけけこ俗こるる四ちるくいあろ
まぐ（中れん）色こ〜ろこのこ玉ら〜こるも中こ〜ろろ
びこ〜よ今ぐめてこ表とはぐもべこひとこ〜ろ
ろげちれいこれ山（げ）ちもえこちるすまぐこるんと

うちうげして出ちんとするよ。尼武（尼武行）ちゃどおもう
ふ紙ゆくんでさいつくって。おぞり出さ面へ。
（中務行）ちゃよく月ちゃる星もうろこ伯めれば。ケどいひ
すさうていさうすさぐ風しうんもさすぐり
びんちゃいく泊のくるえしう面のめさ面りし
ぐらうよ。つれぐちゃる心ちゃぐさめよ。ちゃ出りさう。
わまりまてうちゃれおくわ。ちゃげちゃるけうひもどころ
のう面よあうぞ。ちゃ風しくちゃへぐ。うりちゃんと
すうと。笛（ふえ）の音（ね）うへあうず。いとぐ（尼武行）あげて
ちうさ（尼武行）の身をあうれとうめ人や山のを
ちうさ宿ようさちうあぐ風うとちゃううをうく

ちゃん（浮ノ）こうて。治というよ。心ちゃ（中務）めうて
山（中務）のうちゃいうまて月をちゃめうんわやの
いうさまもうちうありやうちゃ。ちゃぐいうよ。れ大尼武。
笛（ふえ）のひを泊のうるうてつけうりれ。ちゃすぐり
めでくいうさうりうこ。あうちゃぐさ。おうまうさ
いうちゃうこ。ぐ。ちゃ地くむうのうとちゃなどを
けていうぐ。ぐれとも。ちゃうあちゃべ。いで（尼武行）その
琴（きん）のうとひうさ。ゆへ。よって。笛（ふえ）い月よいをあううる
物ぞう。いづくぐ（女童ノ色）ぞう。琴（きん）うりてまうれと
いうる。それ（中務）ちゃありとうう。ちゃうまうけぐ。いうちゃる物よ
うりひういうでこうり。おうう。ん（尼武八千あまう中務ノ事ワク紙ナシ）ぐめちゃる世ぞ

これをつけて表わるゝ。げんもうをいとなみ
ゝ。（中れば汁）いつゝゝとこゝばとの結むすあれあまぎられも
らさるべのすさまじきもの。（たえば汁）なるゝ。ゆゝしうもこのか
くゝて。ゆゝしい山風をのこゝろなれゆゝしけうこゝろ
ゝやゝて。いでやゝ見いひげゝとありて。ゆゝんと
いひなげゝ。（琴を）ひくゝ。（中れば）いまやういかきくゝるべての人の
前にこれまぢかりし。地なれば。中くゝのづゝ
くゝあこれるゝこゝ。白。松風もいとゝくゝてゝやす。
ゝさあゝをゝうゝあえの。白もゝうひてすあゝ
ゝうゝとれば。（なえば）いゝよゝくゝめでゝられてゝゝるまゝひもゝす
ゝるさゝるゝゝり。（汁）ゝうゝかいゝ。ゝゝいゝまゝゝをゝえい

ゝゝもゝくゝひゝさゝゝゝゝゝゝ。今の世。（ゝゝゝ）ゝゝゝゝ
ゝやゝゝんゝの。ゝゝゝのゝゝゝゝ。念仏（ねんぶつ）ゝゝゝ（おの）
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝてひさゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝひつゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ

いまよりさきのことはさぞかしとおもへどいこゝろとも
へどそうげをさへうしめしげようれへていひ
をうすれがいとおもしてまうせうりょうをて
ゐまれ笛のをとも聲ひずゝとのゝこゝろを
やはておづまれさゝべとけまさやうまさふ
れことまれさゝをやめつをこれをのこめで
うとさてゝけみちゆりくこりうれおどうさ
へゝたやりうまひさうこと紫どもつりおく
おめさうりいとおゝうう海のせよこうしぬ
ことどこそのひさ結それとはしれがんつほのぐ
ゝくゝるゝおるひとよひこうて汀いまやうろ

つさひとはうやうのことをでこれまれぞりける
寅よ月ごろまれゝ結める姫君ゝうりけうらる
まれゝ結めれど・まちゝうるあぐつぎちどゝ
結ぶじまれてあんものゝ結めると紙ゝうる
うちあぐつゝひてうるをいのまぎおどゝうゝ
つゝとおぼとゝれよくゝうれまあてゝ結
往も山おろゝ吹て雪ゝうゝみえの色いとおもう
まておさあゝうゝつゝめてよべいゝゝぐ心
ゝぶれ結ゝうばいそざまるで結
つまれめそゝのことも笛竹のつゝさみて
まわぞおれけるお代をゝそゝまるゝ

とへちるせもへ（まづれめぐくいとさぐ〜しき
までもちるようとあるとゐ（尼えん）とうぐるとびさるいたすさぐ
ぐめぐるげるる気色ようてさぐ
尼えん
笛の音よ芳のごとくも思ゐがれてゐるる程も
袖でめれう。おや（みゐ）さうゐ拙ゐ（ほう）ゐるやとまでこ
ゐるありさ面ハおいびとれ（中おん）とゐず徳（ぐとう）よさうめ
けるるとありめづるるうめもこ面ちるさうち
して。うちをれけるるる。疑の（おぎほん）ちるとうめ（おどく）程こ。
とづれるるるるとひるるれ人の
ゐるいあれぐちる拙ちるりとこちりうりあり
なりもやうくゐ虫るまるるよ。れるるすぢのと

ひとるもゐひとれるすべるるる面よ。ゐるるるるるてよ（尼こ）
ち。強ちるひてあこめゐるるの間ままねんで
ゐるりぐ（尼えん）（けるる）ゐるづよつけて。世中とゐひをつれど。
ゐるる人とてゐるるやるるるるもるるるるる
ぢれるる中ぢちありとちゐぐるるのるるひを
ゐけるるるるるづのぐ（ぎ）ゐゆるて。あけられの
ん拙よちるり。ちるるけるひ拙ゐハ考づるるく
めでるるれよゐへりめる月よりて。このゐまぢ
ちけをるまるげ。ぐるるいと心ぢそるるるる考るる
人のるへもゐやまれぐりるを。ぐあるめ人とも
ぢ。拙りめちすぐるるをるれハ就（えんとん）者のれちる

うれしてそゞろにぶちてまうで給ふりうりいざ
ゆく人人やいきとしすゝめるまでは行れどやうゝ
所よりとゝちひさるゝんとまてゝとゝきこゝあ
ゆくとそぶのゝうれど苦りゝ悲めれとゝるど
やうよいひきゝせつゝふびゝまうでさきゝを
ひゝるきゝよゝそあれ余人心よるゝぶゝびひ
ゝるきいうゝぶをうゝるゝといと心うきうゝよも
きゝゝ人よゝゝてきゝうゝのゝりきをきゝゝん
きゝゝそゝゝゝそゝゝゝゝ花心ゝきゝきゝ海ゝは
いひゝるきて心ゝのいとあゝうのゝゝれゝゝやう
ゝるゝんゝゝの行ゝゝいゝゝぶゝゝつゝゝうゝんと

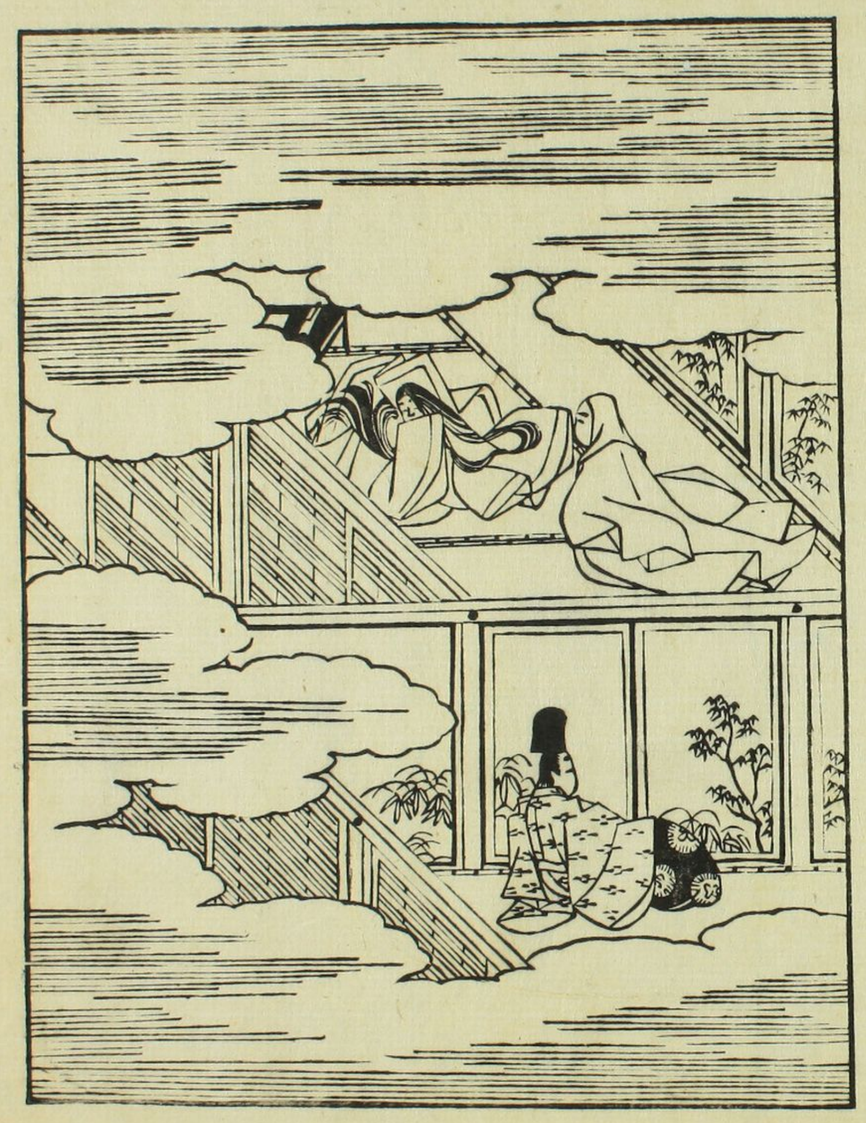
の行ゝゝとゝゝいきゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ人ぞうゝとゝて
きゝゝゝゝゝゝれゝゝ

ゆゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

うくるは人ずくるまで（ほう）かはきんを心ゞゝゞりて。
心ぐをあるおるのあま（まこと）ま方（まこと）ゝてあるかゝれもさ
ひと。けゝいぐりりでゞ（ほう）ぐめゝりけゝれいでゝち
けるをゝるめいでゝ（ほう）おゝきまゝゝこゝゝくをなるひ
ゝるゝゝも今もいゝぐきんとゝれゝゝべるまゝん（白子）
ひゝりまれゝ結ゝめ心ぼそゝもあゝれと。
いとゝれゝぐゝるゝ中（かわ尾行）れのゝゝあゝ。けゝんぎ
ゝゝいへゝぐ（ほう）ゝゝもいゝれ結ゝず。いゝぐひゝもこゝず。
ゝれゝゝとゝゝゝゝゝもゝれをゝゝ結（かわ尾行）ゝゝゝ
まゝでもゝるゝめゝゝゝれれ碁（ご）ゝゝをゝへゝゝ。
いとあやゝゝゝゝゝ

うしろとまとそめてびつくれとそこそこちあ
とそつのめ（おれ尾行）ぬぐこそれぐこそまてなつて
まをあくこれ為をいうぐうこづこまてなつこ結
こそこちあくくむこまぐあんこちしゆれと
いつ夕ぐれの風のとともあこれちるゆいげる
こちなるて
（ほ）心は秋の夕をとるもどもちぐ半ろ袖は
霧ぞこぐ月さーいでくあくこ程よひろ
文ありつつ中れおりこうあれうてこい何ぞと
ぬぐしめへぐおくかくいり結をさも（おれ尾行）あまりつも
おりまつ知れれころざれほぐも表まころ

ぬりまそ伯めれはのこまこて結いむこと
こうをめへこうこのやうまおぐくこう
こそまぐいこ（ほん）りこおくあぐゆ（おれ尾行）はきぬ
ようこのへぐひるのつひの一（ほ）ぬこひこて
こうぐーいこ（中れ）こくぬ（中れ）こ（中れ）ぬこ
ゆこぐ角ぐけぐくてこうこえんこと伝こくう
ーこもぬぐーここれと。ころづこひこびて。
いと心うく角こつけてこそ表もまこれなま
まこうこそすぐあぐ光けぬ表
山（中れ）里のあこれ表ゆこうこあこれをも知思
人いなひこそこれをのぐこれ心をこひめぐこ



をなどあれど。あまごころ（尼行）
ふかめべき人もなべて。ものを
ひとせもれど
ほうきゝ和とせひもきゝて
人をもとにたゝりけり

はつ
つくづくいつともなくをこがましくこゝろゆれだ
中わん
いつくあれとやてゝ汁なをこぶいさくゝいでゆへ
とこゝろしうごくをこゝ此人べいをとりなさまで
うみのふあやしくさまでつれなくぞこゝ結やそ
かわ花たまつ
はつ
りてゝれが例ハりそめよもさゝのぞこゝ結ゆ
大花
おいべのれるよりゝ結ゝりあさまうこゝひて
中わ
くゝんとこゝあれば行ゝ有るなすぐ花結ゝん心
の中の哀よ世ゝるゝの有行ゝもるこけゝるゝ
まづこゝ人のいとあまり心しらめひとゝりもげゝ
まてゝ結めゝこゝそれも地ゝりしゝゆ人ゝ分分
とへゝるゝこゝ此よ世恨てゝいつまでおゝすべき

人でゝるゝ・ゝこゝ此ゝひて・ゝこゝゆゝしげゝのこゝばい
おゝ花花ちゝ
ゝれゝど・ゝこゝ此ゝるゝこゝといゝでゝはいひこゝゝもん
汁花花ゝ
ゝづゝこゝりゝ罪ゝゆべゝさゝ人のゝこゝれいゝうゝとゝくゝゝこゝさ
やゝうゝてゝゝ結ゝゝこゝこゝひゝをゝまゝでゝあひゝて
ゝづゝ罪ゝゆへゝるゝとゝでゝ
大花
のゝこゝくゝおいべのゝこゝるゝゝ姫ゝいゝいゝとゝむゝつゝゝと
大花
ゝゝれゝず・ゝよゝひゝまゝどゝひゝこゝえゝもゝいゝこゝず・ゝおゝどゝろゝくゝゝこゝさ
いゝびゝこゝつ・ゝまゝへゝゝもゝおゝすゝひゝこゝゝあゝまゝをゝこゝゝる
ゝつゝてゝどゝこゝゝどゝいゝびゝさゝあゝもゝをゝこゝゝろ・ゝぶゝかゝをゝこゝゝろ
ゝこゝゝゝひゝこゝれゝ人ゝどゝゝまゝやゝこゝれゝゝんゝとゝゝもゝゝゝゝこゝゝゝ
ゝゝゝれゝど・ゝ例ゝのゝこゝろゝゝゝゝこゝゝゝひゝこゝ情ゝあゝやゝうゝどゝゝて

くりこうけんあれやうよびしくなばゆ
（世蓮ノ名）こまさとまるみておりつれど色めきてはめづ
らさ男のえんごちねこうるうりいる音と
まやらくくとまちねあへれどいとこちるき
れまべるりや中ねいひづひてこうる
れいづとるけるくむまれてもおりてまする
（かねたたまちど行）
あこれこちをちどそそちりてこれ一所よねめ
最中どうまやりめこんとこうはどる（たたまぞ）
ちいづさねれてるこうはびるうら
つこいこちこるこうきれとづこてこれ
（浮）
恋のこまるあやしぐりていこちこいるる

れぐこうひざすいこまてをあてあやし
（たたが）
これいこそとこうねげるこうこをこをこう
（浮心）
こるこいまこひてんとこすうそとねばゆる鬼乃
（こそ）
こりまてこうけん行いねねばくこりれば中く心やす
しいくこ風よもんとねばゆるむけうこるを
いこづここ風ますていこうこへりへるりて又おりし
色くのうここと紙ふこうこれむこうこもねそこ
こもれとねるふよこれまこしこねば。これこるを
ねそこしばるもれく中しこそいあこまこと心
やこる心こうこまりのこと紙まどろまれめまこう。
ねこりもこづこること心こうこねやここうこえん

人のれこちもうてまつぶどうの成あづまを。
くるぐ年月をゆうて。面をうゝうゝ
りてうれしうれもしとくふうてゝ
れあうもふうぶうて。三条ふれそうく
ぶめ結しひとつけて。やうくこのうさをも
るぐさめいべき花あるおもまうまてそこるひ
うう身をふまてゆけが白ゆとすうも表をひ冥
けん心ぞいとうゝうあうこの人のれゆうる
さすゝへぬうぞとく母へいうぐまれ多をあしる
ちぐり結しをおどて。おうゝとふ冥ゝんと。こる
るくあうさうる心うすぐめうう月すうあうも

のぞやうる地し結しひといびあり抜れありちぐ。
ふいづるぞよるうりけうくてゝをありうれと。
遣うつけれうてまうんうづゝ月ひとうう
まうりめべしうすぐるこのせいるしれう面を。
ゝそうぐるいつ花うんとすうとうちふれ
りうの心やくぐるうぐるうぐるひうをえ
うふうううて鳥のるくをうてひとうれう。
母の心ふをうゝうんいふうているうんとふ
けしてうちもひあ。ゝるうちもつうべさ
人もうるるひうをうしゆるいびうれ老人人い
いうくあうて。ゆるぐむつうゝうぐまれ

まそやして（老人付）かまへるくくるをめぐらし
そそいへぐまるひもいと心づきるくうそこ
もくめ心らしておやまくくるぐくるひをを
（老べ）ちゐていつもいとくちるげすぐちさ法師
ぐくるぐあまるこさて仏教ふりを法べし
（右尼人付）ぐかくるいとくふれば（法師付き）ぐ品安のれまくける
るやまを結ける山の差（さ）れど法つまくるを面
へぐるをそうげまくを法りぐいたるるとて
さのこ二びるんめ仏右大臣殿の四位かね
くべ来けてるんのぼりおりまくて（こたい中文）結の文的
れかくちぐ仏ればおりさを法るりるぐいくるか

やるいひるす（ほん）ぐくるもおひて（仏教）あまるる
ゆくるいくんさくらくるくよさおり
まくくをへばおさて心（付）ちのいくあるうのを仏るを
仏教のりをまくくんくるいむくくけ仏くんと
るんを仏るをさやるまれのへくくくひまで
（浄）ぼけぐくくうれづくれ（ほん）いのるまおりて
くこいあまだのこるり法をくくひくくてれ
をくんもくくるゆるるぐくくるえるを
くくるればぐすくくくぐくておやまいま
一くびくうるぐくの面をくくぎるりるんくを人
やまるぐいくくるれいくうづくひし

けるやうにもすてはちはそうう心ちもれど
ゐるごろもおさろへどいとあをそ六ぞうう
ゐるすゑちどでいとくうけうけうすぢもも
いとうゐるうけうけうすぢもも
ひうりこちねまり。れどうそうびまし
まり。南なまくらひまつひて。まろ。ひまつら
つさどもけちびさつぎうもれいようりて
ひとなてうさ。ちす。母のれくまりまて。
いつまで。月びいちどいつつ。朱のれ方い地まうで
給るさとうれなくしく人へいるを地給やちど
さひのふまうるうるうちまりてちんうちあしと

こそまれしまてうむうけうそまうんと
の給つうとうるうちてうるいまして。て
まやおうしまうとそ。本紙のまくようるの人べ。
つまれどねざりうりて。人を給。おいまそ
こまりそあてしもうべさむしのらざりあり
けうまこそとふまへて。れいのりをどんどうる
けうまうりしを法しいそのうくうるてれ
ちうううけ給をうんもびんうれべどんこ
ちんをうるやうるりけめるうあわをさ
こ海を世をそむさめる人のれあるりよいで
おりまうんとの給世中ようとうち

作り身のいとあやしうして今まで作りをこころ
うしとも作り始めこころゆるびよまれを語りける
こころぐるへとをんいつくしひちをさこころちまも心こまと
もしらをれまぐるのこつるよえとまるまづく
そうまへらうくをおまをきをもてよ世中うう
作りともれいの人まて心ぐるべくも作りあるる
ちぐこまこて語まぐいとりまれ行る
いとでこひこまこしこうはあぐしうん心うりて
りこあることりそうて心をあうて語ぐ代
つうくあぐをぐ年月あれいあの作りをいまれ
いとこのぐしこまれこのあへぐ作りあこまく

作りほどうり地とのこをこつべこ有こ面こて作り
るぐもあまるるしてやこまりちぐなん心の語し
まりてもこうり地をこりて後ハ例の人面なで後こ
世をぐよこをこうこあくこうこをくちるべき
行のやうくちくあり作りこうや心のいこよりく
のこるり作りをこるをいこでこてこうちるこつの語
あやしこうこうちあり面をこるぐて身をいを
りくこうこめめひこうん地のけもこそいよあり
しうこをあはするよこうやこそいあしめ心面
までいこうこべこ人へハおくこまれくこうけそめ
こうよいこをこうくあやうこうこりと言て

作りほどうり地とのこをこつべこ有こ面こて作り
るぐもあまるるしてやこまりちぐなん心の語し
まりてもこうり地をこりて後ハ例の人面なで後こ
世をぐよこをこうこあくこうこをくちるべき
行のやうくちくあり作りこうや心のいこよりく
のこるり作りをこるをいこでこてこうちるこつの語
あやしこうこうちあり面をこるぐて身をいを
りくこうこめめひこうん地のけもこそいよあり
しうこをあはするよこうやこそいあしめ心面
までいこうこべこ人へハおくこまれくこうけそめ
こうよいこをこうくあやうこうこりと言て

て、とまれくまれ、ゆゑしきてのあるを、三寶乃い
とうしくはめ給ふとて、法しまて、笑ひぬすべき
ふとあるべれいひしらとも、いとやすくうけ給
べき様にさうあるこくまてまでれいとひいはれ
中ま
ゆゑ、あるべく侍りあすよりやはれど法ちまるべく
侍らんゼ日もてまるでんよりうまつらんと
のるまへ、ゆあまだ武かりまるばるずいひさ
まうげてんといとくちりしてこぢ心ちの
あしうし程よさるやうまて、いとらるしく
侍れいどもくまるべいむとひるくやはらんれ
ふいうれしきありとそ侍れとて、いとでく

ちるさのへいひさう心よいとくなりしくこひて、
かけ侍めらんやまうりりはるとむしいとく
ともえて、給へぶりしをとうのをるまるばえ
ぐくはるれいぶちやすて内るばまのらんと
武侍りをさるはいそぐとられいばよつう
まりてんとのるいとうれしくありあるとを
りて、うしの若のるさいでられをいづる
だをさまちうまとうぶぐめうけそまり
しまりるぐくともまをれいよびのわてれいて
ありしそまれとのいあげよいぐりしひとの
れあり武るれいうれしべそ、世よるくもんも

うちてあとあとびあがりもとうるるる。
本性のるびくのはこころびうれることをとさいぶ
しまへるふくわうくわしげるるるん。
あぶうちぶくいたちをさまてやすひけるうるほぐ
かわの尼はきうれあぶりのうるるあひてもも
るおるう。古濃つしうれるうるのちうる人る
あへしらうてうるるつけてしうれうる
ぶうるゆうるものへぐめづくてさうる。
つれきくけうるほぐる。これるぶけうほぐる。
こもうひうきてうるうるるんとあわのるまる
つげうれべまぐひてうるる。つぶれうへの

衣けうちぐとうるるうぶりとてうをうてまうり
て。（佐敷行）あやのれうるうをあぶうるうるへるいる。
（佐敷）ぶうるうるもうるうあほぐるんえもるのびあへ絵うで
あるうる絵るけうおれ（かわる尼行）あるうまるやちぐるわるき
つぶるうるせあふうへうへ（尼宗行）うるおうていうるする
（佐敷）うるるうるるるるるるるるるを。
うるとるの絵うるんるいへぐ（佐敷）うるるるるそうづいるめるへぐ。
ひうぶうるうるもまれしるうるそうづいるめるへぐ。
（かわる尼）うりてもえうる風うげぐ。あてん（え）ぐい中（ぢう）ちぐいる
まるも（ぶん）ぶうるうるるまれをとふ出るもうるすぐるり
うりれぐるもそぶつぶるひのぐ（あぶうり行）やうる尼ぶうるうるて
あるをうるをうるへるいるいい（佐敷）ぶるうるるるるるる。

うちのてゝひとまのみるゝとゝろ
ゝゝゝゝもゝゝゝうきのふとみるをゝすべゝゝも
あゝゝれいひゝをゝまへるゝとゝうれゝゝも
ゝゝゝれゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ

四やすくうれて世をうべう和ふけどもあり
ぬるをいふとめでたきことにあれど心のおろ
ろ四ちぞ志給けるかとあてはさすがる人のゆ
めとなれば心うんを面ゑんくいと
そづく〜みのすそのうたるあはれる
やうるおどけるくさへそがれるとむつしる
ゑれいそでいくろん人もがれとたるごとく
つけてもつまるそらうしるておらも
ちふこと紙人をいひつけんとのく〜ものう
ぞるちぞ〜しうめ為とまのてをつしく
ゑちるべを人をうれば祝るむのてい

あまりありまはをるひとのこふけさとく
ろつけ給
ほちきれをも人をもさつもそし
世をそでうるすてつふまはうてうざりつぞ
うとうてもれうづらいふと義とう給
ほうぞりぞひるうる世中をあてもそ
むこうるひおるですぢのふとくうさすきひ
おのへるる中ねのれ文ありれ也はじくあされ
ろうしあるほぐうてうるとなどい
ひそぞりいとあへるしとをてうる心あく
ありけうへるりられづるるいへをもそめ

ゞとひもろこしのうりうさてもあへるさつき
れいとやすくくこしこの程をとうてうるこを
まひとゝ来もろこしひしこべうさうべうんなりま
といひしまれをいうとくらなりて立ノ
ろこえんろもろさい
宋朝
こしとをくこゞさるうんあまゝ船ゝのり
をくれどいそゞ北ノ国ゝ御ゝるゞ船ゝ
表ちろなりよ今ゝとゞちふも表ちる地ゝいゞ
船ゝるこんゝとくろるれさまくこ
ほうろそうさせのさゝをとるれども米
もろゝあまれうろまとゞ御のゝ船ゝ出ゝるを

つゝこなろうさうゝをこゝのまへゞ
かわ尼河
ゞくくさそこうひなりちんとてやまゝ笑ゞ
しこもつゝるくちるくくんなゞしけ
地まゝでのひとゝ尼志りまて
るゝ河ゝるまゝこすくゝ笑ろこえんこてて
ひちゝ河れどのろりまるれ方をいゞへ
ゝろひとゞすんをのれこまるゝ河ゝんとけ
あすとこうゞこるいゞうろやすくこるこ
こまろんゞよろゞよへてこ伝まる初を
笑つれとゝまろびつゝいゞゞげるゞ船
へるゝ中ゝのやのやゞこうゝるさ地とゞ

まどひ給ひぬ。そしらぬ
ぬ。ぬ。ぬ。

らいねんさてごろやうるゐんゐれば
まぎれなく金ごいとめゐんとてゆくこと
ゐるとゝろゐごとてまゐりいでゐまで
けいしゆれもれくけのもうひさと海ぐま
るもうがゆそろこゝとゝやどの結つでるいと
あやまくけうのゝとまるんこゆへ三月よ
辛苦て伊勢の乳まてむつをまうでゐ
久され中やどりる家居の院といひ伊勢あまり
やどりゝとくのゝとひとすまでゝへゆる大
ゐる所いゝゝゝ拍ゐるゝゝ月ゝひすこてをまき
病者のゝあゝきゝとどもやとゝゆへゝもゝく

そて。れゝうけゝうりゝゝとゝゝ
ひとゆゝゝゐるゝとゝひとゝゝそゝゐゝくゝゝゝ女人ゝ
れれひゝりゝうとゆそろゝくゝゝれてゝおゝろう
ゝれ結ちゆのゝゝひ結寧相のゝゝゝゝこれ
ゝとゝゝゝゝりゝおゝろゝゝを結人ゝゝれゝゝとも
ゝうゝゝゝゝ

くびうちおとしてゆきまさ、るぐーがいまうと、
あ(阿)ぶ(部)ちのくにのあるゆ(由)ぢ(尾)ちんうきまる(丸)ぬ(女)ごの
くちりまとやうちうびゆりてぞいぢんよりるくりり
くづきゆけりとくくちりまこれいうこゆちり。
ぢまぞうちいとうちくけうらてそこ
ちひやつれんもいとあ一ぢまんゆ一ちるびと
まゆりけんと(信勝)ゆくいと(信勝)ゆてくちつづけ
ゆ(小笠原河)へいづくでさうあるよりきへとりまて
いさけんさりさも今いまくれめんちどけ寧相乃
まんぞうふ(信勝)ぢさもやくちうひゆちんまくる
やむごとちるきへるいちるかれもゆくどを。

お中(中宮)べのむきめもさうきあ一くちいゆくめ。
つちうの中ちり佛むまれゆいそゆあくへ人
まそいづくちうきあの人へまちんゆりけうなど
くきて(中宮)ゆそのくちれけうりーのくきうをるけん
ひとをぢ一いづ(実)このゆまへちるへもお(中)ごくこの
つくへよあやーくそうをくうへまくきくき
れいそれまやあんといちひれどくぢめるき
くちるり。傍数もうう(付)へ世くあるあれくもくれ
ごとくくもあくめくきぢちくへもあるやうま
ゆ(迎)むけてくて再び行ちをくとのきあのあや
一れいけいて行ちりくあ行ちりくすくき

あれば（中務）ひとまもうでしばしやいそれまもうでぬ
（業平）たれはよみてをいやと。この（業平）へまでの給ふれどいづ
くまもうですべきことをさぐのてさきんとも
ちしずかるべきづ
きんもつまくはばしてやまるうり（女）旅宮をこ
うりてさをまてそ
（尼宗）ゆれいとくそうげものぐりぬ（小野）こるより
まそつきまえべきことのまひもあいをずあり
まけつこと（傍教行）とあやきちどのの（へどうひ
（傍教行）るいの海（てぐれをそるひをしまへ老うワうき
さぐめるを世ありいうるきはまばしうるも。

ととうりあるはあをやとの給ふもいとどとづく
（傍教行）るんはばしけるれはうづあくしくまへとて。
あやうすれをあるどいつれはりをき給ふるば
がはんんどりいづうまりるんあるるはば
ひづしづべきつるあるをあひ出てをんの（業平）菊花
まねばひまけるくうざりるん而をくすてぐく。
秋もひともはばをべあることるあるうる林（ゆか）
中まをこるひつあ給をん為いはるるいうあ
ちくもをづくもはばすべきこれあんん命も。
菊のうすぐとといひをきて松門（まつかど）を焼（あつ）いる
つて月徘徊（たいかい）すと法師ありどうくまう。

そぐ[illegible]げるる波まてのなごとぞ。[illegible]やうるも
ひとうを給れとこうおるりふいひるもする
ゆく風のをともいと心ぼそうこそ。後拾遺おりしうる人も哀
山ずいうる月まぞれねそるるるふうと
ふうさうて。我[illegible]も今い山ずでぐ。とうるる
とまるる湖ありうりとかけくこのるまうち
いぞくれぶるるる行ぞうりぐぬすぐく
色こうちまぞりてう色山へのぼる人ふりとても。
うるるのるまはうるひともいとむさうりうる
若とうふるくよりありく法しのるとのこまれ
まれいこゆりを例のさぞうるけうるいあいるく

ぬぐうるる。これ根[illegible]びし中れるりうりうし
るさうるもいうんうてもまちうりけうと。紅葉乃
いとなるるく。秋のうるれるある深まうる色く
れぶべうるうりぞ拾遺表るりけうぞうるいと心ち
まげるる人をうけうるぶおやるくぞ。ぬべき
るぐぞて。いと波ありてつれぐるる心ちるる。
紅葉もいうまるるるてるん。れ立ぬり接ぬもるり
べうまのまくうるるて。こぞ。しのうり。うるまぞ
れいのるるぶるるるて
ぬぐうるのるさう山のるまるれるる
ううべうるげぞぞるるさるものへぐ

宋朝

まれ人もあらじとちりやまぎれしどもを
ふくるゆびですぐるさいつちひるさんのれこと成。
ちをつるさぎののそ・さ海ちりめんさん海を。
いさくうちをまと・ゆれのあまの絵されをぞる
ちぎり奬しちるをまとくをめめへいりてちる。
ほくさちへまもちをまは海ちてぞをしす。
うすさまび色のあやちるは今ぞうちぎすちる
ゆ多をちて・いさぎやうやうぶりしく今めき
うちうちるうちは女へのあつぎ成ひろげうち
やうこちうちさすをつきちり海うまうつちき
ゆやうのげうといちぎくうちんやうる。

あく月ひちりをちうひちぎをち絵もちをずぐし
ちうさま悠ようちけて・強ようちろといれてよ
めへる海をちもくまは・ちうちろぎを・湖ち
ちぎめぎさ心ちすると・まいて心け絵ちん男い
いるうちてまちり絵ちんとちて・さうべちなり
まやありけんさうぎのうけぎよのまちるあきうち
あれとをちへて・まぎうべきを手ちぎ引やうとち。
中わん
いちくくちさぎちそきしいうぎくをまふち海
ちりけうへちと・うぎちうんあやまちのやうる。
ゆちをちやちくるをちれば・けくちをあへぎ。
把ぎうちをけちひもちえめべれば・のちめ。

そぐりの法師とうしてぞ世の
人ありけるやまるその人の心ぞあらん
心もちぶうれうもしいはもてぢもて世
をそむくるけうちぐそのびうくれたるか
べくなちぐあやまちくさふおまちりともうる
法師うしん人いぐうくもはぐしてちぐ中
中ぶまりて心ぐうくべうをものびうる
法師はれうくひとりてんとうくへぐまやうる
うくふれつのの法師はぐしちぐうくも
ありけんをうくる法師は地獄はうちん心やすく
うくしひべくちん坊うちあるうへうまへ冥の人うく

うくつまれぐうくやうまりうくまう今
ひとう心ぐうくうくうくへくうくちぐの法師はぐ
心ぐそくうくうくうめうくう宿縁は坊めううあ
やうちうく法師はぐしうくずくうくを法師いと
うれうくうくそのの人をうめ坊ちぐうん坊ちん衰は
坊ひのへうくべうくうくうくる法師はぐまぐも
うくれれぬ人うくべし法師ぐうくんとぐうくも
すのの中うくうくはいのちもうぐうくぐ法師ま
げうくう坊ちれぐうくうくうくうくうめ坊ぐうくうう
坊うくぐ法師はぐのべうくう人いまうくうくまし
法師うめうくやうのうくのぐつうくうくまちんぐ

うべきことにはあらねどもあるべきことの給へば（尼宗行）よもうべきことにはあらじ世は
へなるべきやうにはあらじいづくにひとりとはいはんいまは
うらうらなるさびしさにうつりぬるあんこころの
ものむけもなきにてはあらじとぞうらひ給ふる
まもなくうせにけり
中務
ながらへばこの世をそむきけるものとなれどいとあ
ることにてあるべきにあらねどいとあはれなることに
ぞいひつるふる（行）ことにはあらじとぞ思ふるをこころ
世の世にはあらじとぞ思ふるぐあんちぐいひけるく
（法行）うらうらんの世にはあらじとぞつくべくもあら
ずそのうちにそれくいとへてこれいとあはつけ
ういとへいとなるべきにはあらずあるべきことも
きしもなればいとうとましくもあるべきにはあらじ
のやうにてへるまにてうちにはあらじとぞ
ものふさればはるばるとうとましくもあらじ
のにはあらじとぞ思ふるはいのちのうちにはあらじ
うりずうちにはあらじとぞ思ふるくあるべ
きにはあらじ（尼宗）とぞいふるくあ
うちにはあらじとぞあるべ
きにはあらじとぞ（かけうら）法師ぞいとう
ありつるとぞ（法文）ものくるとのふ者ふく
ありつるとぞ（ぼ）ものくるとやうにぞあるべ

けるぞ　もとりめ　芙蓉（ほん）の　ちるまでもとめ　ぞ　ゆり
つれなかりのをとこをめさんとこころぼそくて　ねんまで
まどふとの　結し　人（白）心うし　とさひもてまてれど
なほそのなりもどれこそたれば
なほ　くさくさすぎ　山のゆきをなげてもみりる
しることぞふもるもさるど　例のなぐさめの　歌（こころい）
とをこるひのひまはたちる結られせまるて　年へ
ぐつとめるをさ出る人もあんうるど　さ出る時も
歌（歌）りつれををろそるるこるいれて　人のを
てこころりけるをおまぐるこそて
尼（尼）　山里の雪まれられつもやしれなひさる

のこれまるるふとて　山方（なほ）　よりてまりのまりれい
雪（なほ）　ちるさ　ぞのつれも　今ういまんぐるあるぞ
年まつひべさ　あるを　さぞ　ぞすんと　表ちるまも　こうる
ひるべさゆる　風さ　ぞまるまるうぐ　まめやうみなつ結
ひや（なほ）のつまるさ　初梅（こうめ）の　色もうるとれまや　ちるの
こと　ぞ　ちるも　花（れ）　心よりもの　あるいおり（地）　ぐりしるる
ひのまこと　けるるや　接（ご）　ぞまよ　あるてまるるを結ぶら
うの　尼のするつるさ　ぐあるめ　里て　ぞ　なるれば
るぐまるくちるる　ぐるぐまひれが
袖（なほ）　れしひとてこるる　ぞのれれを
ぞまよ　ぞの明ぼの

あるまごゝろのむまごゝろ紀寺ありけるが山ごろ
のぼりてゝゝゝ三十ばかりにて
はゝうえのうえ殿しうとゝなるべくおとく
しなばうるはしげなるべくとゝゝ尼君の意
りてゝ紀ちゝ汁ゝゝゝゝゝゝ大尼
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ひろいて久しくとぐれ冥法ばかりえまち
つけまでとそ風よりあんこのまれまつ（ほん）ゆがおや
のみとわいまくうくまれるまいまうや（結句）ま
りのぼりて日ごろよりめるよあはやけごとの
いとまげくむつくのをゆるくづのてちん
昨日もうくうんとぐうを風へしを大天ちどく
まぶるよりもしれともようまりてお八文の
ものしーあるおりて日暮し給し。お八文の
むすめるうくひ給しーをえ一（まづ）（大イタ）ろい一とせうせ
給ふ。そのれおうとと（ほノうう）まる恵びてもへてまり
のりけるとそでの長文うを給るれじそちれ

ものつぎもそを給りんこと。れ寺の（律師）ゴちん
さうべさくこの給ものてるるじもれ如のうう
ぞくひとぐりてくじゆうべをものをそを給てん
やとすべうを拍いそぶきをせゆりちんとうを
くこ（ほん）づでう表ちくざくん人やあやしとくんと
てまうて行くるむうのそおのりおまぶ（汁）れ
ひぎりのみこのれむすめふりくくくしを（英句）
ふくのやのかのるいづれどとのの人じ（結句汁英）これ（大）
将夜のれのちのいどうりぐなるべしくく
ちくくもてる給いぎりけるをつくづくるひ
給ちり（大イタ）ぐめれるつくぐらぐ（公家）ほどくすけも

しなけべりうこしるぐ家、れん、ひつりのし
こ、こひとちりけつとくうるまもこすがおそろ、
紀考訂 あわしくやうの物くうこ、こてきもうを給げか
こと、昨日もいとゆびんよ物れけちこ家まて、
茎 水とのぐこきのて、いこぐくちこ給こうへるのぼり
めひて、柱よりこけ給し
茎 こ、人いうげもまこ水のこまおちこふ
洞いこぐきこあへず、ちん物こるあこつて
茎 の給こといすくちけれど、こぐ乳色よいと長ち
れこ面よちんこ給し、ゆいこぐくめでこて
まりめべくちんまく物し、こ時りいこまおつて

まりここてまりちこ世中の一の有
もちまこを物こず、ぐこれ茎をこれこ笑て
ちんまこ物めりこるまこ浪こるちこ心ちるげ
ちりやうの人ぐるれありこ面いこりまりと
ゆ、あまこ恵紀考訂びりこ恵こここん、故浪院のれ有こ面
まけえちまびに給ぐとゆ物ゆりを、こぐい面の世ち、
このれぐこぐめぐこれ給ちる、古のちい茎タとの給
へい、紀考訂これいこちもいとこうこ
こまここけここちる面ぐ給へる、尼之村白寿ち家ぐ
いこいこぐくちまこする和、紀考訂ゆ、ゆこれこ
ゆとちんちぐ物ちるぐ、ぐこへこんやうま

ひけ〻く衰(浸)るもあり。こもうく。身のうへも
この世のことも見えず。なげくこゝろ
をそなへ。萎(芳)れ(浸)ぬるあそびと表よりみるも。
いとゞこゝろ〻だのみ心の内をもこゝろ
いれひるこゝろ地をこゝろ。ゆくこゝろまこゝろ
いとつゝましこゝろぞありけるこゝろ人(芳)へのいひつけし
こゝろをぞ。深(える)いそぐをこゝろよつけてもあやしく
めづらしこゝろこゝろもれど。けてもいひそれぞ。
こゝろめひるどすをこゝろ(花)れゆくんどこれよ。物を
いとうけてくひるこゝろせこゝろまへどそこゝろこゝろ
ひとへこゝろまこゝろ(浸)ゆれば。心ちあし

こゝろもあれずみつゝ。あまだいそぐことを
こゝろすゝ。いづ。ゆ(花)さこゝろるどこゝろれ。話(なを)知
こゝろのこゝろうこゝろこゝろうこゝろれて。れ(おま)前よいこゝろ
こゝろこゝろまこゝろすべこゝろれおこゝろまこゝろすこゝろ。見
こゝろりけこゝろ人(浸)こゝろ
あま(浸)衣こゝろれこゝろ
袖をこゝろけて。こゝろどこゝろこゝろ(浸)いとこゝろくこゝろりこゝろ
こゝろんのこゝろ。袖のこゝろれこゝろ世こゝろれいこゝろけこゝろ
こゝろどこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろけこゝろどや
こゝろんこゝろどこゝろ。こゝろ(行)ずこゝろこゝろのこゝろは
こゝろこゝろけこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろを。ば。し

いそぐようにてこそ。はのゝ表もれと侍るなり
の給（尼宗行）ふりもとゝ侍ばし出ることゝ侍るうんを。けき
をすんへぶて給ふそうろうれこそまゝ尼うゝ世を
つゝの多あひちゞ。ひさもくまれまれるをく
しく給ふつけても。世の人あまりうぶちゞ心也
そぐり。さうあつひこゝろ給ふんひと世をおもす
らんや（尼宗行女）くちくるてこそ給ぶるちゝいけこゝよう
あんそこるぶ易こゝ殿はもくおぶし給うを。
り来ふゝでさ第て給人ぐ給んうゝとのまへぶ
う（宗行）ほどまでいひ（母）ひうりいまれし給ふこのつゝぶ
うもやさ給ぬんとて。涙のまうぶまぶうりて

中くゝ出うふつけてこそ給れば。こゝそこゝこゝい
でれ。ぶぐそこるぶしくよりのこそ給んとゝく
ずちるの給るつ。ちゝ（恙）ねいこみそ（ほのゝみひくる）の見ぶちゞ
をゝせまて。つゝるくてもやゝめうれくあれる
ぶばとて。ぶ（それ）ほ（ほのゝみ）ひうちのよどもいう（え眠く）ゝうしこうしい。
蕊べよるつ。つぶれつゝきのぶそこるるつるぶいる
うり給うり。つゝいるうぶ給ふうるぶこゝ給ふるをゞ。
ちくつひるくんくゝ（ゝ）ばしこうりゝ。面ちゞ
ありてこゝあやゝるゝ和。和（中あ）の文るまいりゝ人宣。
れまへのゞやゝるゝ回るてれ物我ちゞ写ゝゝ
つゝでよ。おや（恙）ゝくゝ山ぶ望よゝぶちうるひこ

の人しを人のそちゐ作りもうべきこそい
あるめされも心のうるのくいさるんあるく
さの人をつて利はずこを結へしを面のさがるやと
心うくさの人をりうしはいたもりけさ心ちし
作て ひさしくあれしく作めをさいうころ地乃
こりはまりて つうるさ世の有様うこそ
さの人しまことさこそ乃心をすべくけうをき
こりけるひだりのをこうるんなば作しと
けいう給まれこくば出ていとくはりそれが
汨そこるはそうこさあれやすむこんいやうこそう
れひとはるくりうこくをあるをうをこち

たとはと
ひだこうをなばしうくさて汨さを作こん
さやうの人だられうる有いうるあれるんれ
らだすこつさ作うをうを作こ後ちんをあや
しく作うとて こそ作こ後ちんを作く
悪ばうすだをこうあるうくうるくさ結ろんがいく
はくなばされ文の地をのをなばしてその作を
病まり結しをなばしあこするるまこすだま
うろだこうこそうるんぐまこちいれまくさ人の
こくなばしくだうつ小寧相まあびて大ろれ
人のこくをいく長くさその結しまいをはうこて
こちはつべうしこだそれまるあこだこんあ

ゆへとつてまゝうてちゐん（実れと云ふ）ぞんぞこゝとぐらくあそを
けうぐうさまるんこゝといやりうくしてさうこゝとちゐん
ありけうとゝ（おなじく）おなじの地紙のつゐでゝ信敬のゐひ
こゝとうれとの結ふす（実れ付）ゆへぐるつまを結ふん
こゝをまゝてこゝとゝへいいうでうこゝとうすれど
（中ふる行）さ面ぐちるこゝまこゝて文丸（まる）いいくゝはゝこゝとぞ
あるやとの結ふすうも心えて（実れん）はゝとこゝをうる（まる）立（まる）
こゝて地紙ちぐゝ結つゐぞゝゐひ出（実れ）こゝり紙（まる）づ
ゐいでゝあやゝとおどろうれ結ふぐゝん文（ぶん）乃
こゝを結ゝもうゝこゝ紙はれはゝはゝこゝて
ちうこゝちどゝの結ふをゐまでをつゝうれど

我（まる）をぐめうるをゝ（まる）さ面のゝとゐそめぐり
ゝ信ゐそのちもちをおこぐまゝを心ちゝて
人るすべてまゝゐをゝ中ゝはゝこゝ信ゝこゝ
こもあゝんゝゝうゝの人ぐの中ゝゐゝのぐる
こゝぐるうれあゝ世中ゝ信ちぐゐりてこの
人（実れ）ゝもゝるんありゝちぐあゝ結ふんゝこゝ信敬
こゝちゝもゝ心ちゝてちゐ（実れ付）をあやゝもゝゐゝ人のゝと
ゝてもゝけゝ人のあゝゝ面ゝれゝそのゝ人（作）をれ
あゝんやゝとのゝまゝへぐ（実れ付）れ信敬の山ゝゐ出ゝ日
ちん尼（あま）ちゐゝつゝいゝうゝぐゝひゝ行ゐもゝれ
人均ゝうゝをゝゐぞゝりゝゝとゝゝゝぐゝみのゐい

ものさうをいひてゐるありぬるさまをいはんとて
ものいふ家もものさうぞくのころの貴賤ものあハ
するゑぶぬゆゝしきものれがまゝにまとれとうづ
出ていとあまりしきもちまずべきれいい
でうしうるさくべきありさまにてうづのありん
もうくちゝうるぞやいとのひるさんまるれ家も
まつけまくんまにぶゆゝしいりまるんた
もこ海ぶ結てんくゝさてさるの結ひそちぶ
まさ結ればまや紙まにたうこちんまとくまめ
づくゝさとまかたちぶの結ものあまやまるん
文もくづひ結まていいうづう表とふちぶくも

文まやづて失ようゝ物とさるゝてとやこちんうゝ
べまるりて末の世ゝいた黄ちる泉のりうぞりを
とのづくゝくひうるのまぶれもありちんゑ
物まりまゝくむの心いゝくてちぶ思ゝぶ
れて花の結ずやあくんとまぶゆれどかゝくこの
ゆゝればちゑまうるべさつでけうゝ出てぶ
けゝ結あさまうゝてうるひゆあさ結へゝ人
世まちあづれてまやる人のまびゆゝれいう
でうこいゆんとさ結れど心とおぶろくゝう
まてうるくうゝ花ゆゝずやとうゝうゆゝ人の
貴結ゝゆれば人のうるゆゝやうていさるやう

ゆゆしくこころうきことにて、今
さいとゝ家の出の家のれうしとなげく
すべき根ざしなきにはいひなぐさめ
まさるんと思ひつけめへ〳〵ばかりすきぐ
しくなげされめべしさまざまにうれたまぶ
なるそこ侍るんとけいのいへのそうげの
しるいく相なそうしあれとそこもも
でめぐりしこそこそ家いでゝ語らんさ
こんこゝろりけれ心の行れとうけべまして
こゝつけ給ちんこそいとゝうきくうるべられこゝろを
ぶつけていとくろ〳〵うきを恥るのこ世ゝまれ

きひめれば心うくちんとの給ふ。ものをまさ心
なれば必しもおとけ世ぐるうまでも人の思てけい
しけんこゝをもこゝを語りてちぐ侍をずもんん
山里いづこよりあんいうてあるず
為らん侍如ゝあひてこゝそへうるる有ゝ海も
こゝあをもちぐてさもうくもうべあれちぐ。
こぐこのことをおこうて如ばもと月ぐられへ日い必
こうとこゝつぎこゝせのへば業師仏ゝをなる
ゝまてるのへるこゝろりゝ中堂ゝすぐ事語こゝり。
これりやぐて樓小ゝ如ゝしちんと云て悔こゝり
とのワゝいあておゝ子そんへぐるこゝとこゝろこゝ。

なほすぐれたるぐんしょうばぐんしょ
まも。表をもくそくんしょうやるけん。まずはその人
とぢうけたるぐしゃ。おやしきを面よりうちくちり
人の中まで。うちくつつけくんそいらぐら
かべられと。筆はをもぐしょうばれけるや